

役員一覧 / Officer

会 長	内山 真（株式会社 内山鑑定事務所）
副 会 長	井上 浩一（株式会社 高本損害鑑定事務所）
	太田 英俊（株式会社 中央損保鑑定）
	藤得 牧（東京損保鑑定 株式会社）
専務理事	梅田 厚（専任）
理 事	五十嵐 章（株式会社 札幌鑑定）
	岩泉 和則（株式会社 東鑑）
	加藤 友好（株式会社 名鑑）
	中村 司（有限会社 北陸損保鑑定）
	野田 昇一（株式会社 かがやき鑑定）
	野間 隆則（西日本鑑定 株式会社）
	藤原 昌明（株式会社 三和鑑定事務所）
監 事	森園 哲之（株式会社 福岡損保鑑定）
	中川 博史（税理士法人 AIO）

※五十音順

会場アクセス / Access



● 電車をご利用の場合

- 東京メトロ 千代田線「新御茶ノ水駅」 B2出口より徒歩約1分
- 東京メトロ 丸の内線「御茶ノ水駅」 出口1より徒歩約3分
- JR中央・総武線「御茶ノ水駅」 聖橋口より徒歩約1分

主催・フォーラム運営本部

一般社団法人 日本損害保険鑑定人協会

<https://www.kanteinin.or.jp/>

〒101-8335 東京都千代田区神田淡路町2-9 TEL 03-3254-6454 (代)

第5回 損害保険鑑定人 フォーラム



テーマ
激流

2018.10.19(金) - 20(土)

メイン会場・ブースエリア

御茶ノ水ソラシティ カンファレンスセンター2F
「sola city Hall」

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 4-6

ネットワークミーティング

銀座アスター お茶の水賓館

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 4-3
新お茶の水ビル 21F

19日 13:30 ~ 17:30 講演、パネルディスカッションなど
18:00 ~ ネットワークミーティング

20日 09:30 ~ 16:25 講演、パネルディスカッションなど

〈主催〉

一般社団法人 日本損害保険鑑定人協会

会長メッセージ / Message



皆さま、第5回損害保険鑑定人フォーラムにお越しいただき誠にありがとうございます。

2018年の鑑定人フォーラムは、雪害、地震、洪水、高潮、風災と、さまざまな自然災害が連続的に発生する事態の中の開催となりました。当協会メンバー、そしてお集まり頂いた皆様に於かれましては、それぞれのお立場で各地の災害関連業務に従事され、また災害地応援で地元の業務が繁忙を極めておられる事と思います。事情が許さず本フォーラムに参加できない方々も多数おられたようですが、万障繰り合わせて本日お越しただけた皆様に改めて感謝申し上げます。

5年目のメインテーマは「激流」としました。3つのセクション・テーマは、AI、電氣的・機械的事故、水害です。毎年のフォーラムで取り上げる3つのセクションごとのテーマは、当協会のフォーラム準備運営プロジェクトチームで1年近く前に定めます。1年前には、今年の甚大な西日本水害など予想すべくもないわけですが、今後とも様々な「激流」に備える必要性を訴える意味で、相応しいメインテーマとなったように思います。

今年の自然災害だけで数百という命が失われていますが、今後人的被害も物的被害額も東日本大震災を上回ることも予想される様々な災害や保険事故に、的確に準備して、知識と見識を深め、そして対処して行くことが鑑定人の私たちの務めです。現代の大きな知的激流とも言えるAIの今後についても想いを馳せながら、社会により良い貢献を果たせるよう、このフォーラムの場で意見を交換して参りましょう。

本日、明日と2日間どうぞよろしくお願いいたします。

一般社団法人 日本損害保険鑑定人協会
会長 内山 真

DAY1

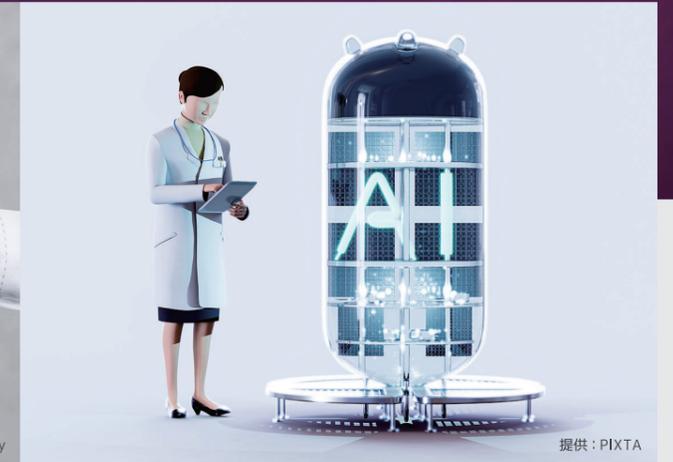
13:40 - 17:30

テーマ①

AIによって鑑定業務はどう変わるか



提供: photolibrary



提供: PIXTA

最近様々なメディアを通じ「AI」という文字を見ない日は無いほど、先端技術の躍進として取り上げられています。とはいえ、なんとなくわかってはいるが正確には理解していないという方が多いのではないのでしょうか。

本テーマはそんな今話題の「AI」について、まずはギリア株式会社 代表取締役社長の清水さまよりご講演いただき、「そもそもAIとは何か?」といった基本的なところから、「AIの査定・支払分野における応用について」といった最先端のお話を伺いたしたいと思います。次に、金融庁にも在籍され、経済産業省や内閣官房IT総合戦略本部等で各種委員を経験された増島弁護士より、「AIによって損害保険業界にどのような変化がもたらされるのか?」、また「鑑定業界における脅威と機会」といった将来についてご講演いただき、これからの鑑定業界に積極的な展望を描けるようになることを目指します。

AIと言われても自分とは遠い存在で、その進化もまだまだ先のようにお考えの方も多いのではないかと思います。既に多くの業種がAIに取って代わられる可能性もあると言われており、我々の業界も他人ごとでは済まされないというのが現実です。

保険業界自体がどう変わっていくのか、目を背けてはいけなとは理解していても、なかなか実感が伴わないようにも思われますが、その変化は遠い将来ではなく、すぐそばまで迫っていることを自覚し、各人がAIを知った上でどう対応すべきかをしっかりと考える礎としていただきたいと思います。

更に、パネルディスカッションでは名案企画株式会社の土川社長をファシリテーターに迎え、講師のお二人に当協会長の内山も交え、幅広い角度から鑑定業界の今後について考えます。特に経営者層の皆さまにはAIの進化にどう対応すべきかを考える為の良い機会としていただければ幸いです。

コーディネーター



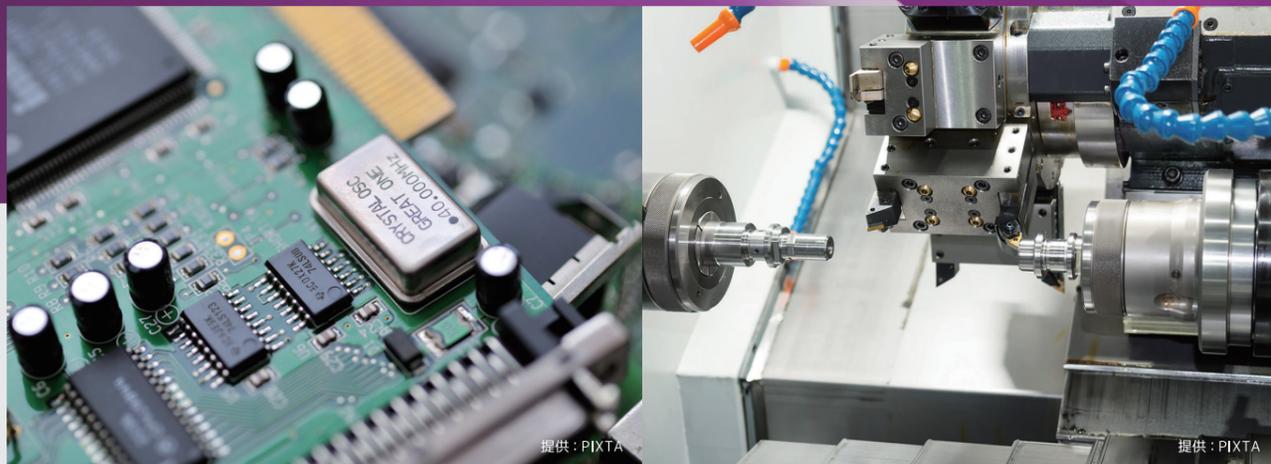
太田 英俊
日本損害保険鑑定人協会 副会長

プログラム / Program

講演	イントロダクション / 太田 英俊 (一般社団法人 日本損害保険鑑定人協会 副会長) AIは今どこまで進んでいるのか / 清水 亮 (ギリア 株式会社 代表取締役社長) AIによって損保業界、鑑定業界はどのような変化が起きるのか / 増島 雅和 (森・濱田松本法律事務所 パートナー)
ブース出展企業・紹介	
コーヒーブレイク (30分)	
パネルディスカッション	ファシリテーター: 土川 尚己 (名案企画 株式会社) パネラー: 増島 雅和 (森・濱田松本法律事務所) 清水 亮 (ギリア 株式会社) 内山 真

※当日の都合等により、やむを得ずスケジュールに変更が生じる場合があります。あらかじめご了承ください。

電氣的・機械的事故



提供: PIXTA

提供: PIXTA

過去フォーラムに参加いただいた皆さまから寄せられたアンケートにて、「電氣的・機械的事故」を取り上げて欲しいとの声が多く寄せられており、今回このテーマを取り扱うこととしました。

アンケートに多く挙げていただいた理由は、我々鑑定人が「電氣的・機械的事故」を取り扱う際、限られた時間・情報のなかで、原因の特定が困難であること、また「事故」と「使用損耗・劣化」の見極めが困難であるといった課題を抱えているからだと思えます。

第3回鑑定人フォーラムでは、「損害保険における事故性」というテーマを取り上げ、事故とは何かを考えましたが、様々な事故の中でも、外来要因を要件としない「電氣的・機械的事故」は、事故か否かの見極めが特に困難となっています。

まず東京理科大学の荒井教授に「機械の損傷発生とそのメカニズム-事故と経年劣化の違い-」というテーマでお話いただきます。続いて電力中央研究所の足立先生に、「電力機器の故障・事故は何故発生するのか?」というテーマで講演いただきます。そして、最後にワーキンググループメンバーも交えたパネルディスカッションパートにて、冒頭に挙げた課題に対し、「電氣的・機械的事故」とは何なのか、「寿命」・「劣化」とは何なのか、そして我々はどのように取り組んでいくべきかを、みなさんと一緒に考えてゆきたいと思えます。

コーディネーター



藤原 昌明
日本損害保険鑑定人協会 理事

プログラム / Program

講演	<p>イントロダクション / 藤原 昌明 (一般社団法人日本損害保険鑑定人協会 理事)</p> <p>機械の損傷発生とそのメカニズム-事故と経年劣化の違い- / 荒井 正行 博士(工学)(東京理科大学 工学部 機械工学科 教授)</p> <p>電力機器の故障・事故は何故発生するのか? / 足立 和郎 博士(工学)(一般財団法人電力中央研究所 電力技術研究所 上席研究員)</p>
ブース出展企業・紹介	
コーヒーブレイク(20分)	
パネルディスカッション	<p>ファシリテーター: 藤原 昌明</p> <p>パネラー: 荒井 正行 (東京理科大)</p> <p>足立 和郎 (一般財団法人 電力中央研究所)</p> <p><電氣的・機械的事故テーマ WGメンバー></p> <p>北村 さやか (東京損保鑑定)</p> <p>中瀬 拓人 (中央損保鑑定)</p> <p>前村 佳孝 (高本損害鑑定事務所)</p>

※当日の都合等により、やむを得ずスケジュールに変更が生じる場合があります。あらかじめご了承ください。

多発する激甚水害



提供: photolibary

提供: PIXTA

近年、局所的な豪雨による水害が増加の傾向にあることは、私たち鑑定人も身を以って感じるところでありますが、今年6月28日から7月8日にかけて西日本を中心に全国各地を見舞った「平成30年7月豪雨」は、本フォーラムで水害をテーマに取り上げることを決定した当初には、正に予想だにできなかった甚大な被害を各地にもたらすこととなりました。

水害の発生頻度の増加はとりもなおさず、私たち鑑定人が水害による建物損害の算定を行う頻度の増加に繋がることとなりますが、一般に水害による損害は風災に比べ、1件当たりの損害額が大きく、また、建物の場合では被害部位や損傷形態が多岐にわたり、復旧方法についても悩ましい点があるものと考えられ、より幅広い知見を身に付ける必要性を強く感じます。

本パートでは、このような潜在的な必要性に鑑み、水害における建物被害について私たちとは異なった立場で調査研究をおこなっているお二方にご講演をお願い致しました。

また、パネルディスカッションにおいては、日頃、疑問に感じる水害損害について掘り下げ、今後の鑑定業務に生かせる情報を発信したいと考えます。

コーディネーター



岩泉 和則
日本損害保険鑑定人協会 理事

プログラム / Program

講演	<p>イントロダクション / 阿保 良平 (水害テーマ WG メンバー、株式会社 三和鑑定事務所)</p> <p>平成 27 年 9 月に茨城県常総市で発生した鬼怒川氾濫による建築物の被害状況について / 喜々津 仁密 博士(環境学)(国土交通省国土技術政策総合研究所 建築研究部 基準認証システム研究室 主任研究員)</p> <p>水害のみえない被害と公的支援の現在 / 木村 悟隆 博士(工学)(長岡技術科学大学大学院 工学研究科 生物機能工学専攻 准教授)</p>
コーヒーブレイク(20分)	
パネルディスカッション	<p>ファシリテーター: 岩泉 和則</p> <p>パネラー: 喜々津 仁密 (国土交通省国土技術政策総合研究所)</p> <p>木村 悟隆 (長岡技術科学大学大学院)</p> <p><水害テーマ WGメンバー></p> <p>阿保 良平 (株式会社 三和鑑定事務所)</p> <p>小林 賢 (株式会社 内山鑑定事務所)</p> <p>竹田 芳則 (株式会社 名鑑)</p>

※当日の都合等により、やむを得ずスケジュールに変更が生じる場合があります。あらかじめご了承ください。

アジア航測 株式会社

アジア航測では地震や台風による河川氾濫等の自然災害時に独自判断により、自社保有機による緊急撮影を実施致します。特に被災エリアが広域となってしまった場合は、人的、物的被害がより大きくなることから、現地の状況確認や今後の調査計画をより早く、正確に行うことが重要かと考えます。例えば、現在は緊急撮影を行った写真から浸水したまちの範囲と建物の浸水深を自動的に測れるような技術開発に取り組んでおり、撮影と同時のリアルタイムにその情報を得ることにより、多くの命と大切な資産を救うことを目指しております。また、撮影データを用いたコンサルタント技術者による、判読・解析、被災判読図作成も行っており、自社撮影により得られた撮影画像や地形データ等はHP上に公開すると共に、ご要請を頂ければご提供も可能です。現地調査の計画の迅速化や二次災害の抑制へお役立て頂ければと存じますので、お声掛け下さい。



株式会社 CUBIC

株式会社CUBICは、高所撮影・俯瞰撮影ができる高所撮影点検システムを、開発・販売しております。高所撮影点検システムには、自由に持ち運びながら地上高6mまで撮影するハンド保持タイプ(SVS-6M)と、地上に設置して10mまで撮影できる三脚タイプ(SVS-10MT)があります。2030万画素、光学40倍ズーム、Wi-Fiデジタルカメラを使用し、簡単な操作で、高精細な撮影ができます。住宅屋根や外壁、樋、太陽光パネル、高速道路、構築物、構築物、高所設備などの点検、災害現場や建築現場、遺跡や文化財の撮影・点検などにお使い頂いております。



京王観光 株式会社

京王観光(株)は京王グループの一員として京王沿線を中心に展開している旅行代理店です。弊社では災害時に現地に派遣される鑑定人の方々の宿泊の手配を行っております。ホテル予約についてはインターネットが主流となる中、旅行代理店のメリットを生かした宿泊施設のご案内、各施設の精算の一本化によって皆様の宿泊手配業務の軽減化を図ります。宿泊施設の手配については弊社の独自ルートだけでなく、大手旅行会社の宿泊枠を利用するなどし、現地のホテルの多くが満室の場合でも可能な限りご案内できるよう努めております。また各地域、各ホテルと多くの支払が必要になる鑑定人のホテル手配ですが、弊社手配によって支払いの一本化、支払方法についても相談可能です。



株式会社 セキド

セキドはドローンの世界最大手であるDJI社の取り扱いを日本国内で初めてスタートさせた企業です。4万社を超える企業様や官公庁・学校・各種研究機関との取り引き実績があり、定期的にドローン講習会を開催、これまでに延べ7千名以上にご参加頂いております。また、セキドではドローンを用いた調査点検の受託業務を行っております。●建造物の点検など、用途に合わせた機材のご提案●目視では確認困難な、広大な敷地や太陽光パネルなどの損害調査の代行●自然災害で破損した建物の損害調査や土砂崩れの現場など、立ち入り困難な場所での事故原因調査●社内パイロット育成の為に10時間の飛行研修●国土交通省へのフライト申請代行業務などドローン導入や業務に関して、様々な案件のご相談にのることが可能です。



株式会社 総合システムプロダクツ

株式会社 総合システムプロダクツは、ユーザー企業の業務の効率化・活性化における高度戦略システムの構築、運用支援、情報機器の販売、セキュリティ対策、クラウドサービスまでトータルに提供させて頂きます。●鑑定業向け・受注案件管理システム…案件の対応状況・進捗管理、請求書の発行が可能。●RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)…働き方改革で注文されているRPA。PC上の定型業務をソフトウェアロボットが代行して業務の効率化を実現。



一般財団法人 日本建築総合試験所

日本建築総合試験所(日総試)は、主として建築全般に関する高品質で信頼性のある試験・研究・評価・審査・認証等の業務を通じて、建築の質の向上と安全性の確保とともに国民生活の向上に貢献することを目的としている、公正中立な第三者機関です。このうち、耐震耐久性調査室が行う火害診断業務は、火災にあった各種建物の構造躯体の再利用の可否および補修・補強の要否の判断資料を得るため、日本建築学会「建物の火害診断および補修・補強方法 指針・同解説」に基づく調査を実施しております。同指針では、調査結果から、火害を受けた各構造部材に対して火害等級を診断した後、建物全体に対する被災度を判定します。



株式会社 フランクリン・ジャパン

フランクリン・ジャパンは、1991年5月に創業した気象会社です。当時、精度の高い雷データを提供できるサービスは、日本に存在しませんでした。当社は正確な雷データを得るために独自の雷観測網を全国に展開し、そのデータを広く一般に提供して安全のために役立てることを目指してきました。そして現在、全国雷観測ネットワーク「Japanese Lightning Detection Network ~JLDN~」の雷データは、屋外レジャー施設や工場等で、人命や設備を守るための情報として活用されています。また観測開始以降、蓄積された膨大な雷データは、過去の落雷状況がわかる「落雷証明書」や「落雷報告書」をはじめ、統計的な処理に対応できるデータとして大学等の各種研究機関でも利用されています。今回の展示では、新しく提供を開始した、Web上での雷データ取得サービス「落雷データ出力システム」をご案内いたします。



BELFOR Asia グループ - 【リカバリープロ株式会社・ベルフォアジャパン株式会社】

■災害復旧サービスとは- 私たちは被災した機械・設備・什器や建物の被害状況を、修復可能かという観点で科学的に調査します。修復可能なものを最大限に活用することで、早期の復旧を可能にします。私たちはお客様の事業の早期再開を強力にサポートします。 ■復旧対象- 火災・爆発、地震、洪水・高潮・台風などの自然災害や化学薬品漏洩等の事故、環境汚染が起こった後の、機械・設備・什器や建物の復旧など多岐に渡ります。特に、火災でのすす、塩素、消火剤等による汚染は単なる汚れや臭いとどまりません。 機器類の腐食や故障を引き起こし、被害を拡大させますので素早い対応が重要です。 また年々被害が増加している水害においても、当社の除染、乾燥、機器修復技術がお客様の資産の保全と事業の早期復旧を可能とします。 ■私たちは、世界最大級の災害復旧企業グループ『BELFOR Asia』の一員です。日本国内では、リカバリープロ株式会社とベルフォアジャパン株式会社の2つのブランドで展開。提携する損害保険会社により、それぞれサービスの提供を行っています。 *BELFORグループは世界25か国以上に約300拠点を有し、グループ全体で約7千名の従業員が世界中の災害復旧に貢献しています。年間15万件の復旧プロジェクトを手掛けており、創業35年以上の実績とその技術力は世界的に高く評価されています。



会員一覧 / Member

※五十音順

渡部鑑定事務所
株式会社 若葉総合鑑定
株式会社 横浜鑑定事務所
有限会社 大和鑑定
株式会社 山貴総合鑑定
社の都鑑定 株式会社
株式会社 名 鑑
有限会社 むさし野損害鑑定
株式会社 みなと鑑定事務所
株式会社 丸の内鑑定事務所
株式会社 北海道鑑定
有限会社 北陸損害鑑定
有限会社 古市鑑定事務所
株式会社 福岡損害鑑定

阪和鑑定 合同会社
西日本鑑定 株式会社
株式会社 永松鑑定事務所
有限会社 道央損保鑑定
株式会社 トラストクレームサービス
東京損保鑑定 株式会社
株式会社 東 鑑
株式会社 デーエム
有限会社 天神鑑定関西
株式会社 つばさリスクアジャスティング
株式会社 中部総合鑑定
有限会社 中日鑑定事務所
株式会社 中央損保鑑定
タキツ鑑定事務所
株式会社 高本損害鑑定事務所
有限会社 高本鑑定事務所

有限会社 高岡鑑定事務所
有限会社 総合技術鑑定
株式会社 相 鑑
有限会社 須磨鑑定事務所
株式会社 湘南鑑定
株式会社 芝浦鑑定
有限会社 静岡損保鑑定
株式会社 三和鑑定事務所
株式会社 三立鑑定
株式会社 札幌鑑定
有限会社 さくら鑑定事務所
有限会社 酒井鑑定事務所
有限会社 神戸天神鑑定
有限会社 グローバル鑑定事務所
黒崎鑑定社
有限会社 共和鑑定

株式会社 かがやき鑑定
有限会社 沖縄損保鑑定
大野鑑定事務所
有限会社 遠州損保鑑定事務所
株式会社 S&S 損保鑑定
株式会社 内山鑑定事務所
インフィニティ 株式会社
株式会社 甘糟鑑定事務所
あずさ損保鑑定事務所
株式会社 アスカ総合鑑定
有限会社 赤坂鑑定事務所
有限会社 葵鑑定事務所
合同会社 i Cube